

「平成28年度 キラリ！三瓶☆夏☆キャンプ」

1 趣 旨

仲間と集団生活をすることで、仲間の大切さや規範意識や社会性を養いながら、様々な活動に挑戦し、困難に自ら立ち向かおうとする力を養う。また、三瓶とその周辺地域の自然、歴史、文化に触れ、興味・関心をもたせるとともに、自然保護意識を高めることを目的とする。

2 事業の概要

- (1) 期 日 平成28年8月17日(水)～21日(日)【4泊5日】
- (2) 参加者 小学生28名(4年生13名、5年生8名、6年生7名) ※募集24名
青年ボランティア14名(島根大学生11名、島根県立大学生2名、社会人1名)
- (3) 主な日程
- 平成28年6月23日(木) スタッフミーティング(ねらいの共有、プログラム素案説明)
 - 平成28年7月15日(金)～18日(月) 事前踏査①(道具点検・準備、役割分担、プログラム案実施)
 - 平成28年8月14日(日) 事前踏査②(三瓶山登山道安全確認、最終準備)
 - 平成28年8月16日(火) 前日準備

	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)	8月20日(土)	8月21日(日)
6:00		起床	起床 テント干し	起床 テント干し	起床
8:00		朝食(バイキング)	朝食(野外炊飯)	朝食(野外炊飯)	朝食(パン朝食)
10:00	受付・開会式 アイスブレイク	石見銀山へ移動(バス)	テント撤収	4th ミッション ～海の達人になる旅～ 海プログラム実施	Final ミッション ～山の達人になる旅～ 男三瓶山登山
12:00	昼食(バイキング)	2nd ミッション ～大森の街並みをゆく旅～ 石見銀山探検ラリー	3rd ミッション ～銀山の古道をゆく旅～ (石見銀山街道 温泉津～沖泊道)	昼食(野外炊飯)	昼食(バイキング)
14:00	1st ミッション ～さあ、旅の始まりだ!～ (班ミーティング、 道具準備等)	昼食(おにぎり弁当)	昼食(おにぎり弁当)	テント撤収	全体ふりかえり
16:00		熊谷家住宅	テント設営 (楡島キャンプ場)	交流の家へ移動(バス)	閉会式・解散
18:00	夕食(バイキング)	夕食(羽釜体験)	夕食(野外炊飯)	道具片づけ	
20:00	入浴	入浴(ドラム缶風呂)	入浴(シャワー)	夕食(ごはんBBQ)	
22:00	ふりかえり 計画確認 就寝(セミナーハウス)	ふりかえり 就寝(テント泊)	ふりかえり 就寝(テント泊)	入浴 ふりかえり 就寝(セミナーハウス)	

3 事業の内容

(1) 事業の特色

集団生活を通して、仲間と共に様々な活動に挑戦することで、困難を自分たちで解決する力を養うことができる。また、三瓶や三瓶周辺地域の人材や自然、歴史・文化を活かした様々な体験活動を多く盛り込んだプログラムとなっている。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

子供たち同士がグループ内で密に交流が図れるように、小人数での班構成で実施した。青年ボランティアには、体験活動の中で起こる様々な困難に対し、子ども達自身で問題解決できるよう、子ども達の活動をまずは見守り、必要なときにサポートしてもらうよう共通理解を図った。また、各班に男女各1名のボランティアがつくことで、安全面に十分に配慮して実施した。

4 成果と課題

○小学生アンケートの記述

- ・友達ともう2度と会えないかもしれないので、とてもさみしい。このキャンプで私の心に残った宝物は、1つは友達との思い出。2つ目は挑戦する勇氣。3つ目はあきらめない心。最後の登山はつらかったが、あきらめずに登れて良かった。
- ・いっぱい友達ができてうれしかった。ハードなスケジュールで大変だったが、友達と一緒に乗り越えられた。石見銀山街道は、海に行くまでの距離が長く、すごく大変だったが、あの距離を昔の人は荷物をもって歩いてたと聞いて驚いた。
- ・このキャンプを通して「ありがとう」「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」がたくさん言えるようになった。これからも大事なあいさつなどをもっと言えるようにしたい。私はこのキャンプに来る前と後で大きく変わったと思う。あいさつもそうだが、輝く自分に出会えた。

○保護者アンケートの記述

- ・普段の生活の中ではできないことを自分たちで考えながらやってみることがいい経験になったようだ。また、大学生のボランティアの皆さんや違う学年の生徒と触れ合うことで、教えたり教えられる交流が子供をひとまわり成長させてくれたような気がしている。キャンプ後は、自分から積極的に行動できるようになったと思います。
- ・規則正しい生活ができる上、自主的にいろいろなことに取り組んだり、チャレンジ精神を養ったりすることができたと思う。また、人との関わりを通して自分を見つめ直す良い機会にもなったと思う。また、キャンプに参加した後は、初めての経験や知らない人の中に飛び込むことを億劫がらないようになったと思う。自信につながったようだ。

○青年ボランティアアンケートの記述

- ・子供との距離感をつかめたことが大きかった。これまでどうしても子供に支援しすぎてしまうことがあった。今回の活動を通して、子供のできることで、できないことを見分けて、見守って支援しすぎないことを意識してできるようになった。また、集団全体を意識して活動することができた。
- ・当初は、今まで子供たちとあまり関わった経験がなかったこともあって楽しみより不安の方が大きかった。しかし、活動していく中で、不安を忘れて自分自身もキャンプを楽しめるようになった。4泊5日の活動を見ていて、人前で話すことができなかった子が勇気をふりしぼって思いを伝えたり、話し合いすらできなかった子がミーティングを自分たちで進めていけるようになったりしていく日々の子供たちの成長を間近で見ることができ、思わず涙してしまうくらい感動した。

《成果》

- ・石見銀山での羽釜体験、銀山街道踏破、海での食材探し、男三瓶登山等、地域の自然や歴史文化を活かしたプログラムを組んだことで、子ども達に様々な体験活動を提供することができた。
- ・体験の中でいろいろな課題に直面し、仲間と課題解決をしていくことで、仲間の大切さを実感しながら、子ども達自身の自信につなげることができた。

《課題》

- ・多くのプログラムを実施する中で、子ども達の自主性を養うため、青年ボランティアに子ども達の活動をまずは見守るよう共通理解を図ったが、「見守り」が「放任」となる場面も見られた。毎日のミーティングの際に、一つ一つのプログラムについて、どういった支援の仕方が考えられるのか、しっかりと共通理解を図る必要がある。
- ・子ども達に様々な体験をさせたいという思いからプログラムを組んだが、予定通りにプログラムを実施することができない日があった。事前踏査では、あらゆる状況を考えながら内容を十分に検討していく必要がある。また、事前踏査の時間も十分とは言えなかった。時間の確保も課題である。



羽釜体験



銀山街道（鞆の浦）



男三瓶山登山

(担当：企画指導専門職 寺戸 真一)